

土木学会 コンクリート委員会  
平成 24 年度 第 2 回規準関連小委員会 議事録 (案)

日時：平成 24 年 7 月 20 日 (金) 14:00～17:00

場所：主婦会館 スイセン

出席者：鎌田委員長、上野幹事長、入内島、内田、小川、片平、加藤、川西、国枝、葦重、坂本、横尾、田中、  
椿、鶴田、東田、中村、野島、野村、日比野、平塚、堀越、丸岡、三谷、皆川、森、山口、横関

以上 28 名 (敬称略)

配布資料

- 2-1 平成 24 年度第 2 回規準関連小委員会議事次第 (案)
- 2-2 平成 24 年度第 1 回規準関連小委員会議事録 (案)
- 2-3 セメント・水・骨材・混和材料 WG 検討内容一覧
- 2-4 コンクリート標準示方書[規準編] 目次 (鋼材補強材 WG)
- 2-5 コンクリート標準示方書[規準編] 目次 (フレッシュコンクリート WG)
- 2-6 4.試験室におけるモルタルの作り方(案) (JSCE-F 505-2013)
- 2-7-1 21.傾斜管によるプレパックドコンクリートの注入モルタルおよびPCグラウトのレオロジー  
定数試験方法(案) (JSCE-F 546-2013)
- 2-7-2 F546 関係資料 出典元
- 2-8 土木学会 コンクリート委員会 平成 24 年度 第 1 回規準関連小委員会 硬化コンクリート  
WG 議事録(案)
- 2-9 2013 年度版規準編 (製品・施工機械) の主な変更・新規記載内容(案)
- 2-10 土木学会コンクリート標準示方書【規準編】2013 年版 補修材料 目次(案)
- 2-11 【委員会報告】土木学会規準「けい酸塩系表面含浸材の試験方法(案) (JSCE-K 572-2012)」  
の制定
- 2-12 コンクリート構造物の補修工法・材料における国内外規準の現状
- 2-13 PC グラウトの試験方法の土木学会規準化について

議事内容

1. 委員長挨拶

鎌田委員長より、平成 24 年度第 2 回委員会開催にあたっての挨拶、2010 年版の販売状況に関する説明、2013 年版改訂にあたっての概略スケジュール (常任委員会への目次(案)提出は来年 1 月) の説明がなされた。また、今回から交代した横尾委員 (ジオスター) の紹介がなされた。

2. 前回議事録の確認

資料 2-2 に基づき前回議事録の確認がなされ、上野幹事長より以下の補足があった。

・議事内容 9. 英語版土木学会規準の状況について；英語版土木学会規準は、常任委員会でメールによる意見照会が行われ、大きな修正なく承認された。今後コンクリート委員会の HP に掲載される予定である。

3. セメント・水・骨材・混和材料の改訂作業について（セメント・水・骨材・混和材料 WG）

資料 2-3 に基づき、セメント・骨材・水・混和材料の改訂作業につき、片平主査より、以下の説明があった。

- ・セメント・水・骨材・混和材料では、目次に変更はない
- ・関連 JIS 規格の変更に伴う微修正については今後検討する

4. 鋼材・補強材の改訂作業について（鋼材・補強材 WG）

資料 2-4 に基づき、鋼材・補強材の改訂作業につき、椿主査より、以下の説明があった。

- ・鋼材・補強材では、2013 年版の改訂は、書式の変更が主な作業となる、現在作業中

5. フレッシュコンクリートの改訂作業について（フレッシュ WG）

資料 2-5 に基づき、フレッシュコンクリートの改訂作業につき、日比野主査より、以下の説明があった。

- ・改訂内容は資料 2-5 記載のとおり。新設・大幅な改訂を含み、項目が比較的多い
- ・土木学会規準 9.~14.は高流動コンクリートの配合設計・施工指針 2012 年版との整合を図るための改訂であり、すでに常任委員会の承認を得ている
- ・JIS 規格 13.フレッシュコンクリートの温度測定方法は、現場で利用されることが多いことから、従来の<省略>から、本文を掲載することとした

また、坂本委員から、“試験室におけるモルタルの作り方(案)の改訂(案)”につき、説明がなされ、規準小委員会として、修正を基本的に了承した。細部は再度修正するが、用語の使い方（JIS；改正、JSCE；改訂）については再度確認しておく。

丸岡委員から、資料 2-7-1、2-7-2 に基づき、“傾斜管によるプレパックドコンクリートの注入モルタルおよび PC グラウトのレオロジー一定数試験方法(案)”につき、説明がなされた。確認された事項は、以下のとおり。

- ・英文題名につき、検討すること
- ・この規準で、レオロジー一定数が“測定”出来るのか、“推定”出来るのか？整合性を取ることに
- ・試料の採取方法につき、文章を再考すること
- ・4.試験方法 にある“備考”は、注) のルールに合わせて修正すること
- ・5.計算 にある“ $\tau$ ”の添え字は“f”で統一し、「 $\tau f$ 」と表記する

6. 硬化コンクリートの改訂作業について（硬化コンクリート WG）

資料 2-8 に基づき、硬化コンクリートの改訂作業につき、横関主査より、以下の説明があった。

- ・2013 年の改訂となったため、現在原稿を見直し中
- ・JIS 改正が多くあるため、それに関連する修正が必要
- ・具体の修正点については、再度確認した上で、審議にかける

- ・付図、参考図など、図番号のつけ方がまちまちであることが確認された  
なお、図番号のつけ方については、修正作業 WG 皆川主査が再度確認し、対応の方法を提案することとなった。また、修正作業の過程で、判断しかねる事項が生じた場合には、皆川主査に直接確認することが了承された。

野島委員より、PC グラウト関連の試験方法 4 件について、説明がなされた。このうち、①PC グラウトの圧縮強度試験方法(案)は改訂規準、②PC グラウトの材料分離抵抗性試験方法(案)及び③PC グラウトのブリーディング率及び体積変化試験方法(案)は、関連規準を土木学会規準とするもので、④PC グラウトの単位容積質量試験方法(案)は新設の規準である。これらの規準は、プレストレストコンクリート工学会の PC グラウトの設計施工指針改訂委員会から、土木学会規準化の提案がなされた。PC グラウトの設計施工指針は現在改訂作業中であり、年明けから講習会を開催する予定となっている。これら 4 件の規準(案)に対し、以下のような指摘がなされた。

- ・ISO との整合性を取るよう英文タイトルを再考すること
- ・全体的に説明が不足している。構成を含め、再検討すること
- ・試験方法の記述は、内容的に試験体の準備である。再考すること
- ・既存の規準（例えば、JSCE-F 532、F 533、JIS A 1116）との違いを明確にし、整合性を取ること

本件については、修正を加えたいうえで、次回委員会で再度審議することとなった。内容については再度見直し、意見があれば、野島委員まで連絡すること。なお、本件については、(PC グラウトの設計施工指針の講習会が年明けに予定されている関係から) 年内に常任委員会の承認を得る必要があるとの指摘が、鎌田委員長よりなされた。

#### 7. 製品・施工機械の改訂作業について（製品・施工機械 WG）

資料 2-9 に基づき、製品・施工機械の改訂作業につき、以下の説明がなされた。

- ・JIS A 5308 は、24 年 3 月に「追補」が公示され、これを記載する必要があると判断しているが、  
具体の記載方法について、判断しかねている
- ・施工機械で、3 件の規準（安全要求事項）を本文<省略>で記載すべきと判断している  
以上のうち、「追補」の記載方法については、委員長、幹事長が確認することとなった。

#### 8. 補修材料の改訂作業について（補修・注入材等 WG）

資料 2-10 に基づき、補修材料の改訂作業につき、皆川副査から以下の説明があった。

- ・英文タイトルの変更を含め、修正検討中
- ・JSCE-K 561 については、正誤表の記載も必要と判断している

#### 9. JSCE-K 572 けい酸塩系表面含浸材の試験方法(案)の制定について

補修・注入材等 WG、皆川副査より、資料 2-11 のような報文を土木学会論文集に掲載する方向で検討中であり、今後編集委員会にお願いする旨、説明があり、了承された。なお、掲載時には、K 572 本文を全文掲載するようにしたいとのこと。

10. コンクリート構造物の補修工法・材料における国内外規準の現状について

補修・注入材等 WG、皆川副査より、資料 2-12 のような報文を規準小委員会の HP で公表する方向で検討願いたいとの提案がなされ、掲載する方向で検討することとなった。本件は、数年前に一度 JCI 誌に投稿したが、今回正式版がリリースされたので、修正を加えたとのこと。

同時に、皆川副査より、WG 名称を“補修材料 WG”に改称したい旨、提案がなされ、承認された。

11. 次回の予定

平成 24 年 10 月 10 日（水）14:00～17:00 土木学会

文責 内田